



ぼらんていあ通信

No.422

2017年1月24日

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会

連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内

TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp <http://sagamiva.wordpress.com/>



それでも前へ

会長 西本 敬



会員の皆様おけまじつおめでとうござい
ます。今年も元旦はまじつ日本晴れ、い
い天気でしたね。皆様、それぞれ素晴らしい
新年を迎えられたこととお喜び申し上げま
す。年頭にあたり私たちの協会の現状につ
いて述べさせていただきます。

◆100数年の歩み

今年思いつくは「それでも前へ」です。
一年一年、少しずつではありますが、私た
ちが抱えている課題を解決しながら、目指
す方向に向かって進んでまいりました。そ
の過程の中では、なかなか簡単にはいかな
いことも多く、足踏み状態に陥っているこ
ともあります。それでも、後退するということな
く、前へ進みまじつと思いを表現し
ております。

改めて、100数年の歩みをまじつおめでとうござい
ました。

●二〇一三年度には、協会らしさを打ち出
すことが大切であるというところから、住ま
いさがしサポーター事業への協力や就労困
難な若者への支援など、新たな活動への取
組みを開始しました。また、財政面での
改善は待たなしの状況であり、そのため
の具体的な施策の検討を進めました。

●二〇一四年度には、傾聴活動をスタート
させ、南連絡所をあじさい連絡所に統合し、
さらに、事務局の体制においては、庶務担当
から事務局サポーター制度へと変更を行いま
した。これについては、サポーターを始め、
南連絡所の関係者の皆様の大きいなご協力
によるものであることはご承知のとおりで
す。これらのことにより、大幅に財政事情は
改善されたことになりました。

●二〇一五年度には、ハンディキャップ活動に
おいて、セタン型運行を正式に開始し、九号
車は売却しました。セタン型運行は運転者所
有の車両を使用している活動のため、活動参加
者を得ることは簡単ではありませんでした
が、少しずつではありますが、増員の方向に
むかっています。これは、本誌にあらがたいこ
とだと思っております。

●100数年、市内の企業の皆様にご協力をこ
理解いただき、支援していただく活動もしっ
かりとした成果が継続的に出てきており、あ
りがたいことだと思っております。

◆今年度は



さらなる財政安定化のための検討を進め、
来年度からハンディキャップ福祉有償運送に
迎車回送料を追加していただくことといた
しました。利用者の皆様ごとの追加的な
負担は申し訳ないことではあります。私た
ちの福祉有償運送事業の持続性を確保する
ために、利用者の皆様の協力が不可欠とい
えます。十分な説明をこれから行ってい
ますが、従来にも増して、利用者の皆様と

ボランティアがともに一緒になってこの
仕組みを支えていただくようお願いいた
します。

◆残された課題は

この数年でなんとか達成したかった課
題の中では、協会事務局体制の改善がま
だまだの状況にあります。日々の活動連
絡調整、イベントなどでの支援活動、法
人事務など多くの仕事を受け持ってい
だいておりますが、まだまだ十分な体制
ができたとは言えません。会員の皆様
のご協力がいただきたいことです。

傾聴活動も南区では順調に拡大してい
ますが、中央区と緑区ではまだまだの状
況です。活動していただける方の確保は
進みつつありますので、活動PRなどご
工夫をお願いいたします。

ハンディキャップ活動では、運転要員の
不足、セタン型活動への参加者不足も今
後の大きな課題です。来年度は古い車両
の新車への入れ替えも検討していること
から、活動に参加していただければ会
員の確保は喫緊の課題です。

◆それでも前へ

以上、100数年の動きと課題を列挙し
ました。多くの課題の解決には、会員の
皆様の自発的なボランティア精神に基
いたご協力が不可欠です。「どんなに
役に立つものでも、ご協力を大切にし、
ごまじつとご報告を申してい
ただきます。新年にあ
りまして、ごまじつお願ひ申し上げま

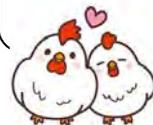




お話を伺った右から田中さん、江澤さん、島田さん

年夏から準備を始めて昨年十一月一日に「相南フシンドリーの会」をスタートさせたものです。現在スタッフは九人います。スタッフの資格を取得できる市の講座を修了している利用者

ボランティア活動グループ訪問記
介護保険の新しい制度により
活動を始めたばかりの
「相南フシンドリーの会」



一月十三日(金)午後、小田急江ノ島線東林間駅より徒歩二〇分ほどの東林公民館へ。新しく活動を始められた「相南フシンドリーの会」の会長江澤一朗さんと副会長の島田美恵さん、そして市社協東林地区生活支援コーディネーターの田中敦子さんにお話を伺いました。今日は活動日ではないのですが、私たちの都合で伺ってきました。

昨年十一月発行のほらんていあ通信四二〇号ページに紹介した内容に関連して、平成二十八年四月から新制度が始まった介護保険要支援1・2相当の人を対象とした支援を、ボランティア団体が担うという活動をいち早く立ち上げた団体です。

会長の江澤さんは自治会の福祉活動に参加したことがこのボランティアを始めた原点で、スタッフ全員、同じ自治会で見守りの活動に参加している方たちです。現在、自治会の見守りは八〇世帯ほどあります。

副会長の島田さんは民生委員もなっています。地域の見守り活動を通じて、支援の必要性を痛感し、昨

安心して頂ける支援が提供できます。

支援を受けるには、日常の生活で買い物か一人では大変、「出しがむずかしい、外出もなかなか大変になったなどの人が、まず高齢者支援センターに相談して市への申請手続きを経て、要支援1・2相当の判定を受けた人に対し、ケアプランに従って買い物や散歩の介助、ゴミ捨ての支援などのサービスを行うものです。支援を受ける方が健康を維持し続けて生活出来るのが、介護予防につながります。そのため取り組み支援が期待されています。

利用料金は一回一時間一〇〇円で買い物や散歩の支援を行います。「ゴミ出しは週一回一〇〇円となっています。このような支援は「訪問型住民主体サービス」と呼ばれ、運営には市の補助金も受けられ、スタッフは「そがみほらんていあハートポイント」が受けられます。



スタッフのみなさん

今始まったばかりのサービスで周知度はまだまだた少ですが、相南一〜四丁

目の地域で、見守りや有償ボランティアの活動と並行しながら続けていきます。

「地域福祉は地域の住民で担う」気楽に活動しながら続けていくことがお互いの生活に潤いが生まれると思う」といふ話も聞きました。(山崎、植野)



*相南フシンドリーの会

会長 江澤一朗

相模原市南区相南二一九一七

電話 〇四一七四四一〇一六〇

Twitter

ほらんていあ通信版 ツイッターコーナー

気まぐれな応援

高橋 隆昭



ボフ協創立の一員で、本誌の前身ハンディキャップ通信の創設にかかわった一人として原稿を書くことに感慨一入。創立時よりボフ協に邁進の尽力をされておられる会長、理事さんに感謝。ボフ協の活動の印象、ほらんていあ通信の充実した構成、編集諸氏の取材姿勢に感嘆しております。事業としてボランティア養成講座、傾聴活動の推進、福祉活動団体の協賛など、これからの協会の使命として一層の充実を期待しています。

*ロンよりの証拠、ヤス請け合い(私の未発表の川柳中曾根元総理、ロナルド・レーガン元米アメリカ大統領との首脳会談より)

応援メッセージとの思いも見つからず、今様の時代に何を見つめるのがボフ協の課題。想いだけが、精一杯の見守りです。

クイズコーナー

- ①アヒル ②ホトトギス ③ガチョウ
④カッコウ ⑤タチョウ
⑥カササギ ⑦ヤンバルクイナ

私の番



四年の「US」は「USA」と言われ、商売などでは縁起の良い文字となっています。西の市に出かけ、商売繁盛を願っています。

イベント情報

要約筆記 体験してみませんか。
手書き、または、パソコン

日時 二月十六日(木)
午後二時～午後四時

場所

相模原市障がい者支援セン
ター松が丘園三階研修室
(中央区松が丘

内容

- ・要約筆記の説明
- ・利用者(難聴者)のお話し
- ・手書きまたはパソコンで要約筆記を体験

定員 手書き・パソコン 各十五名

申込み 障がい者支援センター松が丘園

(体験会担当)迄、体験会参加希望
と明記し、氏名・住所・連絡先電
話番号・希望コースをご記入の上、
二月十三日(月)迄に、FAXで
お申し込み下さい

申込・問い合わせ先

相模原市社会福祉事業団
電話 042-758-2121
FAX 042-758-7070

○連協 カフェー しゃべり場

“わ”をつくろう!つなごう!

障がい者種別を超えて・・・

すべての人が住みやすい社会をめざし、大きな“わ”となつてつながり、私たちの町 相模原を共生の町にしよう。
日常の困りごと・苦勞・悩みそして喜びなど・・・
しゃべり場で しゃべろう!

- ☆日時; 2月25日(土) 13時~16時 (この間入退場自由)
- ☆会場; レストランあい (ウエルネスさがみはら2階)
- ☆参加者; 市内の障がい者団体(当事者,保護者,支援者他)
- ☆参加費; 無料 (参加者にはケーキセットコーヒーか紅茶付)
- ☆申込; 参加希望者は、各団体役員またはれんきょう事務局
- ☆問い合わせ、NPO法人れんきょう 事務局
TEL&FAX 042-755-5282

○発達障がいの方の「親なきあとの準備とは」

～安心・安全な暮らしを守るために～

- 講師; 渡部 伸 氏 行政書士「親なきあと」相談室主宰
- ☆講演日時; 2月18日(土) 13時~16時、受付12時半~
- ☆参加費; 会員; 無料、一般 500円
- ☆定員; 100名
- ☆会場; 相模原教育会館 3階大会議室(1)
中央区富士見6-6-13
電話; 042-758-2190
駐車場; 30台分(無料)
- ☆主催; 相模原市自閉症児・者親の会【相模原やまびこ会】
- ☆申込・問い合わせ 担当; 野口 (090-3517-7337)

総合建設 (株) 正建
3つのコンセプト

01 提案力

注文住宅から、公共施設、増改築まで対応する総合的な技術力とノウハウをベースに、それぞれのご予算・ご希望を最大限に活かしたムダのないプランを提案します。

02 地域密着

相模原、町田及び周辺エリアで30年以上建物づくりを続けてきました。地元密着ならではのアフターケアの充実はもちろん、地域を知りつくした提案や施工も当社の大きな特長です。
(施工範囲は東京・神奈川全域です)

03 嘘のない建物

嘘のある建物には必ず後悔が生まれます。だから私たちは正しさ、正直さにこだわります。施主様と偽りのない意見を交わすこと。建材の品質や見えない所の施工までを正しく実行すること。当たり前のことのようですが、実行できている建設会社は案外少ないのではないのでしょうか。

相模原市で活躍する会社紹介



総合建設
株式会社 正建



創業 昭和54年4月
代表取締役 義見 亮太 さん(39歳)
2017年 相模原青年会議所 理事長
所在地 〒252-0328
南区麻溝台7-12-12
電話 042-742-2955
FAX 042-744-3667
URL: <http://www.shoken-net.co.jp>

安心して暮らせる正しい建築

総合建設 (株) 正建は、技術屋が集まってできた会社です。営業力は大手にはかきませんが、建築技術、仕事への誇り、地元への愛着はどこにも負けないと思っています。

嘘のない建築を造るという姿勢のもと、建てたあともずっと満足していただけるような提案をめざしています。

☆事業内容

- 総合建設業
- 開発事業
- メンテナンス工事
- 各設計・施工

初めての試み、フリーマーケットでの運転者募集

昨年12月25日(日)9時30分~12時、相武台団地グリーンパーク商店街前広場で行われた「相武台グリーンパークフリーマーケット」において、当協会の活動紹介とハンディキャブ運転者募集を行いました。

当日の午前中はあいにくの寒い曇空でしたが、子供たちからお年寄りまで野菜や食べ物(焼き鳥、おでんなど)や衣類・装飾品の店などで買い物を楽しんでいました。これらの人達に宣伝ビラを渡し、ハンディキャブ活動を紹介し、子供たちに車いす乗降車体験をして貰いました。

このフリーマーケットは、南地区の運転者 荒井さんが主宰している団体「グリーンパーク ジモティ®」で毎月1回行っている行事です。今回の試みは荒井さんのご提案に始まり、団体の皆さんの諸々のご準備によって実現したものです。翌日荒井さんから寄せられたメッセージを紹介しします。



協会旗・活動紹介看板・10号車の前でパチリ!

ハンディキャブ委員会

今回のフリーマーケットでの皆様の努力は、報われると思います。何も行動を起こさなければ、花も咲かず実にならないです。

私の活動の一つですが、毎週金曜日にみかんの木136本の剪定(せんてい)、草刈り、摘果(てきか)を行っていて、今その成果が出て来ています。老人ホーム、障害児童施設、高齢者の皆様の少しでもお役に立てればと思います、収穫したみかんをプレゼントしています。

今回は、入り口に過ぎないので継続的な行動が大切だと思います。現状の問題点、課題を共有して1人でもハンディキャブの運転手が入会する事をお手伝いいたします。
12月26日 荒井善友(ぜんゆう)

仲間

コーラスを楽しんでいます

利用者 WEさん



8年前にケアマネジャーさんにハンディキャブを紹介していただきました。しかし当時予約がなかなか取れないため、利用を中断しました。その間頑張ってバスを利用してきました。しかし半年前から身体の状況が変化してきたため、利用を再開しました。

10年ほど前から公民館で月2回行っているコーラスに参加するため利用しています。ただ公民館の会場が1か月前に決まるので、それからハンディキャブを予約すると1回しか利用できない月があります。

ボランティアの皆さん、本当によくしていただいているので感謝しています。

お知らせ

新たに運転を希望される方へ「国認定講習」開催

国土交通省認定

福祉有償運送セダン等運転者講習ご案内
(主催団体の募集広告より)

<日時>

3月5日(日)及び12日(日)
10時~16時20分

<場所>

5日 : かながわ県民センター
(横浜駅西口より徒歩5分)
12日 : ハーモニ-みどり
(JR横浜線中山駅より徒歩7分)

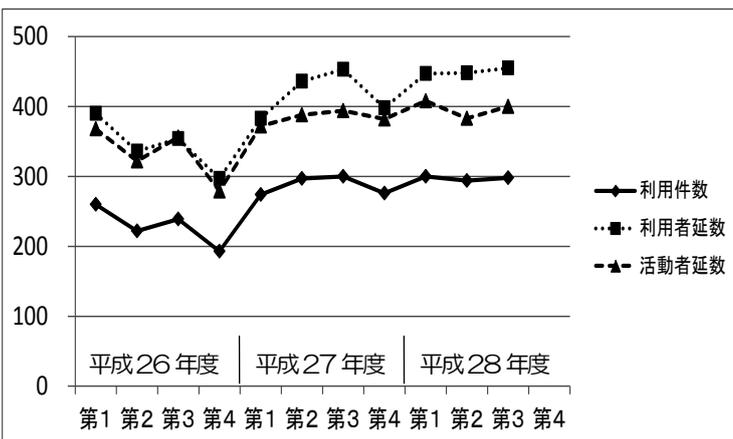
連絡先: ハンディキャブ委員 井上

042-715-0989

運行実績

第3四半期報告まとまる

第3四半期では、「セダン型」運行(運転者の自家用車を使用する運行)の利用件数の割合は33.6%でした。



地区社会福祉協議会 活動紹介 VOL2

“地域にある福祉課題を発見し、みんなで共有し、解決していく”
「福祉コミュニティ形成事業」の各地区の取り組み

世代を超えて誰もが気軽に集まれる場づくりを！

藤野地区社会福祉協議会 大塚章 会長

★平成 28 年 4 月 1 日現在
人口 8,966 人
高齢化率（65 歳以上） 32.3%
年少人口率（14 歳以下） 9.4%

藤野地区社協では、少子高齢化・中山間部という環境の中、身近な地域の中でいざという時に助け合える関係づくりを目指し「世代を越えて誰もが気軽に集まれる場を地域にたくさんつくろう！」という声をきっかけに、孤立をさせない活動「たまり場」づくりを進めてきました。



平成 23 年に緑区佐野川で「隣組のお茶飲み会」が発足したのをきっかけに翌年以降、各地区に「たまり場」の活動が生まれ現在では 7 地区で開催されています。

世代間の交流が進むように、ご近所での誘い合い、親子参加の呼びかけや幼稚園との定期的交流等、それぞれの地区で工夫をしながら取り組んでいます。

また、ともしびショップ（緑区小淵）を拠点に、障がい者と地域との交流を目的に「たまり場アップル」も開催されており、地域の中で様々な形で活動が広がっています。

向こう三軒両隣り！ 顔見知りから見守り活動

相模湖地区社会福祉協議会 江藤堅一 会長

市内で最も少子高齢化が進んだ相模湖地区社協では地域の強みである「顔見知り」を活かした「見守り」活動に取り組んでいます。

「みまもりネットさがみこ」

地区内の商店は普段のお付き合いのなかで、お客さんがどこの誰であるかをよくご存じです。そこでご商売の時に、「支払いの時に計算に困っている様子を感じた。」など、いつもと違う様子など心配に感じたことを高齢者支援センターや民生委員・児童委員等につないでいます。登録店は現在 28 店。

「こんにちは赤ちゃん！さがみこ“めくもい”支援事業」

生まれてきた赤ちゃんを地域で祝福し、訪問をきっかけに顔見知りになることで、困った時に民生委員・児童委員や主任児童委員に気軽に相談できる関係づくりを目指しています。赤ちゃんの生まれたご家庭に、民生委員さんらが訪問し、ボランティア手づくりの赤ちゃん用品やおもちゃ等のプレゼントをお渡ししながら顔見知りの関係を育てています。



ボランティアさん募集！

本のルビ（ふりがな）振り



内 容 識字障害があり、漢字を読むことができない方のために、本のルビ（ふりがな）を振る活動です。ご自宅です。

日時・頻度 ご自身のペースで1～2ヶ月に1冊

連絡・問い合わせ先

相模原ボランティア協会あじさい連絡所 : 電話 042 (759) 7982
 相模原市社協 中央ボランティアセンター : 電話 042 (786) 6181



新春ボウリング大会のお手伝い

毎年恒例の障がいをお持ちの方とのボウリング大会です。
 日時：平成29年2月18日(土)8:00～11:30
 場所：相模原パークレーンズ（中央区相模原2-7-4）



手芸材料の提供を！

使わなくなった布地、フェルト、毛糸、ひも、ボタンなどがありましたらお願いします。
 ボラ協手芸グループでは、桜まつりやほかほかふれあいフェスタで、エプロンやマフラーなど手作り品を販売し売上げをボラ協に寄付しています。
 ボランティア協会 手芸グループ

使用済み切手・未使用切手 書損はがきを集めています

切手グループでは使用済み切手等を集めています。貴重なボランティア活動の財源になりますので、ぜひご協力を！！
 相模原ボランティア協会 気付 切手グループ



*連絡・問い合わせは

相模原ボランティア協会 あじさい連絡所
 電話 042 (759) 7982



今朝は庭のバケツの水が凍っています。
 七草がゆのセリの根を煮きビンの水に浸けておいたら、緑色の芽がニセンチほど伸びて葉が出てきました。寒い中、生命力の強さに感激！

編集後記

(11)



なお

《今月のイラスト》

…寒い夜は、パパやママのお布団♪

長年、ボランティア協会で様々なボランティアにご尽力いただいた理事の宮河良一さんが、一月十六日にご逝去されました。
 お亡くなりになる直前まで、ハンディキャップでの介助など、ボランティア活動に精力的にご活躍されていました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

訃報